

月報

39号

発行所

青丘文庫

編集・発行★韓 哲 曦

〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2階

TEL (078) 734-5989

「日本民族は一度も

オリンピックのマラソンで

優勝したことがないのでから……」

飛田 雄一

ソウルオリンピックの開会式で孫基禎氏が、踊りながら聖火をもって入場してきた姿は、今も強く印象に残っている。テレビで日本のアナウンサーが、一九三六年のベルリンオリンピックのマラソンで優勝した孫基禎氏であることを、故意にか、さらに紹介しことが、私には不満だった。

日本が朝鮮を植民地支配していた時代に「日本人」として参加した孫基禎氏は、見事マラソンで優勝したのだった。ドイツでサインを求められたときには、ハンゲルで名前を書きそのあとにKOREAと書いた愛国者である。歴史的事実としては、東亜日報の「日章旗抹消事件」としてよく知られている。

六月の終り、ラジオを聞いていたら、君原氏をゲストに、ソウルオリンピックのマラソンのことが話題となっていた。君原氏とは、メキシコオリンピックのマラソンで、首をふ

りながら走るあの独特のホームで走りぬき、銅メダルをとった人だ。

話が中山を中心とした日本選手の話になったとき、彼は、次のように言ったのだ。

「日本民族は一度もオリンピックのマラソンで優勝したことがないのでから……」
君原氏はちゃんとわかっているのだ。だから日本人ではなく、日本「民族」と発言したのだ。もちろん、そのラジオ放送のとき、アナウンサーからそれ以上の話にはならず、中山選手あるいは瀬古選手にがっばしてほしいという話に移っていった。

オリンピックをめぐる日韓関係の報道のなかでは、柔道、バレーのときの韓国人観客の応援の仕方、日本選手に対するブーイングなどが問題とされていた。新聞でも、投書欄の話題となっていたが、せめて、孫基禎氏のこととは、入場式アナウンサーのようにのさりと流すのではなく、きちんと歴史的事実として伝える必要があったと思う。もちろん、アナウンサー個人の資質の問題ではなく、ソウルオリンピックの現地放送を一手におこなったNHKの資質の問題であることはよくわっているが、この紙面ではやいてみた次第である。

在日朝鮮人運動史研究会（一〇四回）例会報告

一九八八年九月十一日

米軍日本占領文書について

その一例として、"Aliens in Japan" の紹介

金 英 達

(1945.6.29)

近時、注目を集めている在日朝鮮人史あるいは現代朝鮮史研究の新しい資料群である「米軍日本占領文書」につき、その全体像を次のように五分類して鳥瞰してみた。

一 第二次大戦下の米国内の対日政策文書（朝鮮および在日朝鮮人関係）

二 米軍接收文書

三 『米国戦略爆撃調査団報告書』

四 占領行政文書（GHQ文書および南朝鮮軍政庁文書）

五 占領期検閲文書（プランゲ文庫）

これらの各資料群の性格、利用価値、日本における閲覧・利用の方法などにつき、調査した範囲内で解説した。

本例会では、このうち第一分類の「戦時下対日政策文書」をとくに取り上げて、一九四二～四五年の米国内の対日占領政策研究報告書の作成機構・各文書シリーズ・英文文書リストを図解によって詳しく紹介、説明した。

そして、そのなかで戦前の在日朝鮮人の実態調査がかなり詳しくレポートされている（大統領府直轄の戦時情報機関である）戦略局（Office of Strategic Services 略称OSS）の調査

分析課（Research and Analysis Branch 略称R&A）で起草されて後に陸軍省民政部から Civil Affairs Guides 「民政ガイド」の一冊として刊行された次の資料を紹介した。

R&A No. 2690 "Aliens in Japan" 「在日外国人」

この英文資料は、要約五頁、本文三九頁、付表八頁で、その大きな部分を在日朝鮮人の実態報告に当てている。内容項目としては、①朝鮮人渡航の歴史、②朝鮮人渡航の背景、③経済的地位、④地域的分布、⑤社会的地位、⑥日本政府の朝鮮人政策、などである。戦時下、ワシントンで書かれたこのレポートが使っている日本側典拠資料は、昭和五年の国勢調査報告、各種の年鑑類、『社会政策時報』誌掲載の在日朝鮮人関係論文などであり、日本政府側の公刊資料が多い。

こうした資料に拠って、一般的な差別状況、同化政策の概況などを記述しているが、資料的制約もあってか、あるいは米国内の朝鮮人観を反映しているのか、在日朝鮮人を解放をめざす運動的主体としてみる視点は全くない。

この資料の全日本語訳は、近く『部落解放研究』誌に掲載する予定であるので、そちらを参照していただきたいと思う。戦後のGHQの在日朝鮮人政策にどのようなつながっているかについては、もうすこし検討・分析する必要があると考えているが、当時の米国内の在日朝鮮人認識の程度を判断できるといふ点で、若干の資料価値が見出せる。

朝鮮民族運動史研究会第77回報告 (88・9・18)

第2回朝鮮学国際学術討論会と中国東北地方の朝鮮族歴史学者に会つて

森川展昭

私たち(本会会員の水野直樹氏と和田春樹先生と筆者)は、今夏は表題のごとく、中国東北地方(ハルビン、長春、延吉、白頭山)朝鮮族の歴史学者と交流をし、北京では北京大学朝鮮文化研究所と大阪経済法科大学アジア研究所共催の第2回朝鮮学国際学術討論会に参加した。ハルビンでは東北烈士館を見学した。もと日本の治安関係の建物を東北烈士館に利用していることにまず深い思いにさせられた。東北烈士館は抗日革命烈士を記念したものとしてはなかなかよく整備されていた。革命家達の遺品の数少なさは当時を偲ぶには物足りなさを感じたが、逆に、抗日戦闘の厳しさをものがたり、見る者の思いを深くした。革命家の遺

品は解放後、遺族や同志達から、集めたものもあり、また地下に埋めたものを掘り起こしたりしたものもあるという。革命家の面影が分からないときは遺族、友人の証言で、顔を複製するという。東北烈士館は現代東北史研究の貴重な記念館である。長春では吉林省革命博物館を訪ねたが、都合によつてみる事ができなかった。ただ吉林省博物館(旧満州国皇帝の宮殿を使つてゐる)は見学した。延吉では昨年と同じく延辺大学民族研究所の先生方と延辺歴史研究所の先生方とおもに抗日武装闘争の歴史事実についての意見交流をおこなつたり、説明を受けたりした。北京では標記の会議の歴史部会に参加した。報告は勿論朝鮮語で各時代にわたつたため、分からない部分もあった。中国の朝鮮族の歴史に関する報告は興味深いものがあつた。このたびの旅行を通して多くの事実と貴重な資料を手に入れることができた。

※ 第77回研究会では、飛田が延辺朝鮮族自治州訪問についても報告したが、その内容については、『むくげ通信』一〇九号(八八年七月号)、一一〇号(九月号)参照のこと。(飛田)

新図書案内

(4)

韓国民衆運動史資料体系 (農民戦争編)	馬江出版社	85年 9月P482
韓国地方資料叢書 (1~19)	"	87年 3月~ 5月
順庵全集 (1~4) 第1次刊行分	"	84年11月
官報 (1~5) 大韓民国政府広報	"	87年 5月
在日朝鮮人民族教育擁護闘争資料集1	金 慶海著 東京 明石書店	88年 4月P943
延辺調査實録	沈 如秋著 延辺大学出版社	87年
分断社会と女性・家族	許 五綺著 東京 自由社	88年 4月P318
韓国家族法入門	青木 清著 東京 有斐閣	86年 5月P272
玄界灘に架けた歴史	長 在彦著 大阪 大阪書籍	88年 5月P312
在日外国人の在住権入門	金 英達他 東京 評論社	88年 5月P204
朝鮮語のきまり文句	金 容梅著 東京 南雲堂	84年 6月P166
済州島略史	金 聖宗著 東京 新幹社	88年 2月P139
韓国史研究 報 第60号	国史編纂委員会	88年 3月
牛駒の神々—現代都市の民族宗教—	宗教社会学の会 大阪 創元社	87年 5月
中国正史—朝鮮伝・譯注—	国史編纂委員会 ソウル 同社	87年12月
各司勝録 (2.3~2.6) —黄海道篇—	"	87年
大韓民国史料集1	"	87年12月

研究会案内

- 朝鮮民族運動史研究会 第79回例会 於／青丘文庫
日 時 1988年12月18日 (日) 午後2時
テーマおよび報告者
① 「初期義兵闘争について」 尾川 理江氏
② 「甲申政変の性格」 中西 智子氏
※おふたりとも大学4年生で、それぞれ卒業論文のテーマを報告されます。
研究会終了後、忘年会を開きます。
- 在日朝鮮人運動史研究会は、開催予定であった12月11日 (日) に、中国延辺歴史研究所所長・韓俊光先生の講演会を、神戸YMCAで、青丘文庫、神戸学生青年センター、神戸YMCAの共催で行いますので、それに合流することにします。(別紙参照)
- 来年、青丘文庫は、創立20周年を迎えますが、青丘文庫代表の韓哲曦氏の『日本の朝鮮支配と宗教政策』(未来社)の出版と文庫の20周年をお祝いする会を、2月19日 (日) 午後4時~、神戸YMCAで開きます。いまから、予定をいれておいて下さい。